追手門学院大学 一貫連携教育部　学院志研究室 ―――― 第6号

OTEMON GAKUIN

News Letter

News Letter of Research Center for the History of Otemon Gakuin

特集 学友会今昔（いま むかし）

はじめての大学祭

第1回大学祭（のちの将軍山祭）は昭和41年（1966）11月3日（木）に催されました。追手門学院大学の創設はこの年の4月。わずかな準備期間で大学1期生（517名）がつくりあげた行事でした。

演台に立つのは天野利武初代学長です。天野学長はこのときの大学祭パンフレットにつぎのような巻頭言を残しています。

最初の大学祭がいかに貧しいものであっても　私は心からこれを祝い　本学の大学祭が日本の各大学の大学祭のよき模範となる日の遠からざらんことを念願しつつ　諸君とよろこびの一日を共にしたいと考えている。

大学祭当日は、軽音楽部や拳法部などが日ごろの練習の成果を披露するステージ発表のほかに、文化部･体育部による展示、模擬店やバザーも設けられました。

写真はワンゲル部による「山に関する用具の使用方法等の山のことすべての展示」です。

特集記事　学友会の過去・現在・未来

学友会からCSC立ち上げへ！

川﨑 昭一（大学第８期卒業生）

４０年以上前の学生時代のことについて執筆依頼があり、あいまいな記憶のまま書いているので間違いなどがあれば、ご容赦と改めての訂正をお願いしたい。

大学開設当時、世間では学生運動が盛んであったが、追手門では体育会系の学生が学内での学生運動を封じ込め、大学ではその後、左派的な活動は影をひそめた。もともと世間からは「お坊ちゃん、お嬢さん大学」と評され、全体としておっとりした学風であったため本学では馴染めなかったのかもしれない。

ただ昭和49年（1974）に大学から学費値上げが提案されたことを契機に、値上げ反対に学生の意識が大きく動いた。当時、建物は１号館から3号館、体育館、食堂、それとクラブハウスしかなく、もちろん学生のたまり場などは無かった。そのためか学生は今よりもクラブに所属する割合が高かったように思う。クラブハウスは、トタン屋根のプレハブだし、食堂といえば、工事現場にある飯場の食堂を連想させるもので、天井は低く、机の下から円形の椅子を引き出して座るというものだった。

スクールバスの便数も少なく、そんな状況のなかで学費値上げが提案されたため、学生の不満が一つの塊になったように思う。

私は1年から3年生まで報道会新聞局に在籍し、その後、無所属委員会を経て学友会の渉内局長として大学との交渉にあたった。新聞局からは、何故か私を含めて連続3年間、無所属を経て学友会の役員に就任している。特に学費値上げの運動が、今までになく学生たちの意識を高揚させ、そのエネルギーをそのまま終わらせるのはどうかということで、学友会の特別委員会として、学生意識委員会（CSC）を立ち上げ、学生の意識をとりまとめて大学との交渉にあたった。昭和52年（1977）に完成した学生会館は当時の浅野事務局長の理解もあり、学生の意見を反映させたものであった。その後、CSCが４０年にわたって活動したことは驚きでもある。私の退職に合わせたように解散したことは、残念でもあるが長く学生たちが頑張ったのだなと思う。

報道会新聞局発行の「追手門學院大學新聞」

学友会の今、思うこと

杉本　馨（学友会本部委員長）

学友会本部とは、学生による学生のためのより良い大学作りを目指す自治組織をいう。学生が楽しく、より良い大学生活を過ごせるように日々活動している。主な活動として、学友会所属団体の統括、学生無料コピー、卒業アルバムの作成や日々の清掃活動などがある。現在、学友会本部では4回生役員４名、3回生役員５名、常任委員13名の計22名で和気藹々と活動している。

今まで学友会委員長は２回生時に学友会本部常任委員や３回生時に局長として経験を積んだ者が務める傾向があったが、私は学友会本部に携わった経験がないままに推薦され、委員長に任命された。そのため右も左も分からないことが多く、役員にたくさんのサポートをしてもらいながら今まで不自由なく務めることが出来た。

周りのサポートがあったことで本部内の雰囲気作りから実務までを問題なく果たすことは出来たが、ひとつ困ったことが、学生組織を代表するというプレッシャーだ。今まで文化会の写真部の部長として一つの団体を支え、日々の活動に取り組んでいた。40名ほどの部員を抱えながらも大きな問題もなく、新たな活動にも取り組めたことが自信となり、委員長の推薦をいただいた時もその自信から何の迷いもなかった。

しかし、次第に自分が学生の代表という認識が強くなっていき、学内の活動中だけでなく、日常においても緊張感から休まる暇がなかった。時には " 本当に自分でよかったのか "、" 周りの役員の足を引っ張っていないか " など自分の立場に疑問を覚えることもあったが、たくさんの人の期待や応援に応える中で今まで以上に強い、１人では作れなかった自信へと繋がっていった。

やがて私は学友会本部の抱える課題について考えるようになった。それは部活動などに所属しない一般学生の認知度についてである。名前は知っていても何をしているのか知らない学生も少なくないと思う。今年度は学友会フレッシュマンキャンプといった新たな活動から認知度が高まったかと思うが、全学生へとなるとまだまだ活動が足りなかったと感じる。

これからもこの課題を達成するべく日々精進して参りますので学友会本部をよろしくお願いします。

未来を目指す新学友会「追風」

豊島 眞介（学生部長・学院志研究室員）

「新しい学友会では何をすればいいのか」。学生諸君から、先生方から繰り返し質問された。そこに学友会が抱えていた問題点が浮き彫りにされていると思う。

組織体は年月を経るうちに目的意識を見失うことがある。本学の学友会もそうだった。学友会の本来の目的は何か。学生のために何が良いのかを突き詰めて、大学に提案していくことではないのか。そのような問題意識から今回の学友会再編はスタートした。

従来の「学生管理」を柱とした組織から「学生支援」を目的とした組織に再生する。クラブ学生が中心になって運営してきたため全学生の意見を反映できる組織になっていなかったのを、学部のクラス代表に参加してもらうことで対応する。さらに教職員が支援に加わることで、活動を活性化させる。

以上のような構想で新学友会は委員の選出を急いでいる最中だ。

関係する皆様にはぜひ、「追風」を応援いただきたいと望んでいる。

雑誌バックナンバー寄贈のお願い

学院志研究室では学生活動の足跡を後世に伝えるべく資料を収集・保存しています。つぎの雑誌のバックナンバーをお譲りいただける方は、ぜひ末尾のお問い合わせ先までご連絡ください。新刊情報もお待ちしています！

所属	雑誌の名称		寄贈を望んでいる号数（もしくは発行年）
学友会本部	学友会会報		2．5．7．27. 28. 30. 34. 36. 37. 42
	U-TALK		3～6
	学友会新聞		2．4．6～8．11. 15. 16. 18～21. 23
報道会	気分誌びぃ・ぷれす		1．2．3
	追手門学院大学新聞		2．3．8．10. 13. 15. 1988年～1996年
体育会	体育会会報		24. 33
	輝		1
	追大スポーツ		7．11. 13. 17. 19～24. 26. 27. 29. 40. 47. 49. 50. 52. 53. 55. 56. 58
	剣道部　無　KENDO-BU		1～16
文化会	文化会会報		1972年. 1990年. 1991年. 1994年. 1996年. 1997年. 2008年以降
	学術（局）機関紙		36～41. 43 以降
	文芸同好会	清艶	1～3．38
		蜃気楼	1～18
		流砂	1～5
		文芸ウォーカー	1．2
	生物学研究会	夏期合宿	1983年. 1988年. 1989年
		春期合宿	1975年. 1976年. 1978年. 1990年
	考古学研究会	藍野	3．20. 25
	探検同好会	Endless Expedition	3
	地理歴史研究会	機関誌	37
	社会福祉部	ともに	73～112
	美術部	追美会展	1～34. 37 以降
	書道部	紫水	1～7．9．10. 12 以降
	茶道部	無	1～11. 13 以降
	落語研究会	追手門寄席	15～21. 23～42. 44. 45
		まか不思議王国	1．2
	演劇部	劇団飛行船（学外公演）	23～36
	ピアノ電子オルガン・インストゥルメンタル部	定期演奏会	1～41
	ギター部	Regular Concert Guiter Club Campus Concert	1～32. 34～46
	吹奏楽団	定期演奏会	1～21. 29～37. 39
	マスコミ研究会	REVIEW	1～4
	旅行研究会	旅風船	1992年～1999年. 2001年. 2003年. 2004年
		Trippy2005	1～3．5．6
無所属委員会	SANSUN		73. 77. 79. 80. 85. 86. 97. 151. 155
	我等		1
	サークル案内		2005年～2007年. 2009年～2011年
	鉄道研究会セイシェル	せいしぇる	1
	SF研究会	FRONTIER	1～16. 18～32. 34
		悪い宇宙人	1～88
	漫画研究会シリウス	SIRIUS	1．3．4．6．10. 11. 13. 15～39. 48～51
	登録団体 FACT	FACT	1～4．6．7．9．14. 15. 17. 19～21. 23
学生意識委員会	The　GASH		1
	SHIMA-CHANG		1
	CAUTION		1～3．5～10. 12～18. 21. 23. 25. 27. 36
	全学アンケート結果報告		5．7．12. 13
その他	追大青春の断章編集委員会 青春の断章通信　Pomme		1．5．6

お知らせ　（2017年6月～10月）

■ 研究室の主な活動

記念資料室所蔵資料の目録登録、学院史のマザー年表作成を継続して行なったほか、打合せや会議を開催した。

6月1日　重複本の引き取りを学院内で募集（30日まで）
6月22日　第2回室員会議（会議室4A）
6月30日　学院志研究室NewsLetter第5号を発行
7月1日　吉田浩幸氏（大学6期生・元大学職員）を調査員に委嘱
7月27日　第3回室員会議（会議室4A）
9月15日　追手門UI論の授業見学（小倉）※以降省略
10月2日　第4回室員会議（会議室1B）
10月27日　茨木市立北陵中学校2年生2名による職業体験

■ 学外活動

7月19日　近畿大学アカデミックシアター見学会に参加（小倉）
8月1日　全国大学史資料協議会西日本部会2017年度第2回研究会（於、神戸女学院）に出席（齊藤副室長・小倉・安田）
10月10日　第11回資料保存シンポジウム（於、一橋大学一橋講堂）に出席（安田）
10月11・12日　全国大学史資料協議会2017年度総会・全国研究会（於、愛知大学豊橋キャンパス）に出席（小倉）
10月17日　大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム（於、大阪大学中之島センター）に出席（横井調査員）
10月26日　平成29年度公文書館機能普及セミナー（於、茨城県立歴史館）に出席（小倉）
10月27日　第2回学園アーカイブセミナー（於、帝塚山学院住吉校）に出席（小倉）

■ 資料のデジタル保存

7月25日　将軍山会館移管資料の8mmフィルムの第1回デジタル変換作業（横井調査員）
8月8日　茨木中高所蔵のポジマウントのデジタル化作業を依頼（藤原調査員）
8月23日　記念資料室所蔵の平成29年度デジタル化写真の選定協力（吉田調査員）
9月13日　将軍山会館移管資料の8mmフィルムの第2回デジタル変換作業（横井調査員）
9月27日　将軍山会館移管資料の8mmフィルムの第3回デジタル変換作業（横井調査員）
10月18日　将軍山会館移管資料の8mmフィルムの第4回デジタル変換作業（横井調査員）

■ 資料の受入れ

社史『クラシエ10年の歩み』・図書会議等資料・生物学研究会資料・少林寺拳法部創部50周年記念関連資料など、クラシエホールディングス株式会社および学院関係者から寄贈を受けました。

■ あとがき

News Letter 第6号をお届けします。今年度は学院職員、OBの方に調査員として活動いただき、それがさまざまなかたちで実りを産んでいます。将軍山祭期間中には、学院に残されていた数十年前の8ミリフィルムをデジタル化し大型モニタでの上映をしました。研究室を紹介するパネルもスタッフによって作成されました。各位のご尽力に感謝します。（藤吉圭二）

追手門学院大学　一貫連携教育部　学院志研究室　News Letter 第6号
2017年12月00日発行

■お問い合わせ先■　学院志研究室
〒567-8502　大阪府茨木市西安威2-1-15 追手門学院大学4号館1階 記念資料室
TEL：072-665-5062（直通）　（内線4405）
E-mail：archives-g@otemon.ac.jp
URL：https://www.otemon.ac.jp/research/labo/gakuinshi/

一貫連携教育部　学院志研究室

学院志研究室は、学院の歴史および学院関係者の事跡に関する資料の収集・保存・研究などを通じて、学院の教育・研究の一層の充実・発展に寄与することを目指しています。

今回は将軍山祭にちなんで大学創設期の大学祭をご紹介します。

むかしの**1号館**です

学院志研究室ではこうした古い写真や映像などの**デジタル情報化**を順次すすめています

第１回 大学祭　創設からわずか７ヶ月で

第１回大学祭は**昭和41（1966）年** 11月3日（木）に開催されました。**この年の４月に追手門学院大学が創設**されているので、わずかな準備期間で大学１期生（517名）と教職員とがつくりあげたものでした。

第１回 将軍山祭　第２回大学祭

学生・一般からの公募や投票によって大学祭の**名称が将軍山祭**に決まりました。

開催日：昭和42（1967）年 11月 2～4日

テーマ：躍動と共栄

第２回 将軍山祭　第３回大学祭

学院創立80年記念行事の一環として、祝賀式典のあとにひきつづいて行なわれました。

開催日：昭和43（1968）年 11月 9～12日

テーマ：自由の中の規律

第３回 将軍山祭　充実する大学祭

開催日：昭和44（1969）年 10月29日～11月3日

テーマ：明日への進歩は対話から

積極的な事前の広報活動や、クラス・ゼミごとの活動報告、学外での前夜祭など、**かつてない様々な試み**がなされた大学祭でした。

第４回 将軍山祭　大学の進展とともに歩む大学祭

開催日：昭和45（1970）年 11月 5～8日

テーマ：力の躍動と創造への挑戦

天野利武学長は「諸施設の整備の仕事は、今後も続けて行なわれますが、年次計画による大学創設の事業は（中略）一段落したと申してもよいかと思います。本学建設のあらゆる面について、創設期の苦労は、まことに容易ならぬものでした。（中略）この転機を示すにふさわしいテーマであると思います」と述べられています。

学院志研究室では、追手門学院に関係する資料を収集しています。

- ■ 学院関係者に関連するもの
- ■ 在籍時の写真・教科書・ノート・記念品など
- ■ 学院内で刊行された新聞・雑誌・広報誌・報告書など
- ■ 将軍山祭などの行事・学友会・ゼミ・研究会の活動に関わるもの

これら以外のものでも構いません。学院に関連するものであれば下記までお気軽にお問い合わせください。

■お問い合わせ先■　学院志研究室
〒567-8502
大阪府茨木市西安威2丁目1番15号
追手門学院大学4号館1階　記念資料室（内線4405）
TEL：072-665-5062（直通）
E-mail：archives-g@otemon.ac.jp
URL：http://www.otemon.ac.jp/research/labo/gakuinshi/